



キャットミュージックカレッジ専門学校 専門課程

2019年度 学校関係者評価報告書

(基準日2020年3月31日)



学校法人 大阪創都学園

キャットミュージックカレッジ専門学校

学校関係者評価委員会 議事録

■開催日 2020年12月03日(木)

■開催時間 14:00~15:15

■開催場所 キャットミュージックカレッジ専門学校 本館5N-3

■出席者

三原淑治 エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役 ※委員長

高橋国明 株式会社白竜社 取締役 第6期生 ※副委員長

瀧川紀征 株式会社リバフオール 代表取締役会長

東龍太郎 科学技術学園高等学校 通信課程大阪分室長

井原延治 (学校長)

森正 (教務主任)

小池敏 (就職キャリア課長)

城将敏 (学校法人大阪創都学園事務長)

○校長挨拶

今回より三原淑治氏を委員長、高橋国明氏に副委員長を務めて頂き、この委員会を進めさせて頂きます。学校に関する報告をさせて頂きますが、更なる発展のため、委員の方々から御意見を頂戴致します。

○自己評価報告書実施概要についての説明

- ・昨年に関する自己評価報告書を精査、特筆すべき内容を説明 (井原学校長)

教育理念・目的・人材育成像

1-3 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか

- ・点数評価を自己評価3から4へ
- ・2019年より学生たちを「表現者」として育成に取り組む。専攻という区切りではなく出口を考え、①就職、②フリーランス、③進学(一段上の勉強を考えるもの)という見方をしている。
- ・ここ数年は、技術系学生の就職の根付きの良さが評価できる。

学校運営

2-6 目的等に沿った運営方針が策定されているか

- ・点数評価を自己評価3から4へ
- ・企業就職や表現活動に向け、それぞれの専攻に合わせた指導方針は、講師会や専攻分会で打ち出されている。出席率や進級率は年度ごとに目標設定され、昨年度実績が報告される。

教育活動

3-27 職員の能力開発のための研修等が行われているか 自己評価 3→4

- 点数評価を自己評価 3 から 4 へ
- 全体講師会等で各種セミナーを実施。2019 年度全体講師会において「様々な学生対応へのヒント実践心理学」として、学生との「関係」「つながり」「交流」に関するセミナーを実施。
- 学生に対し案内される特別プログラムについては、導く立場の教員も参加。自己を高める意識を持ちながら学生指導も行っている。

財務（城事務長）

- 貸借対照表、事業活動収支計算書、資金収支計算書に沿って説明
- 4/7 緊急事態宣言からの対応(給付型奨学金の認可、緊急給付、助成金等)
- 学費分割納入の様々なケースに対する対応

その他

5-40 一部スクール事業もスタート、業界連携による再教育プログラムの充実を図っていきたい。

10-58 地元自治会や江坂地域のイベントへの協力は行っているが、地域に根ざしたジュニア、シニアに対しての公開講座や教室を行い地域貢献等に努めたい。

○学科ごとの振り返り報告

楽器ビジネス学科

• 基盤製作等に CAD ソフト使用を取り入れる等、対応可能な部分から順にカリキュラムに取り入れていく取り組みを行う。パソコン制御のルーター導入を目標にしている。最近入学してくる学生の傾向は、音楽好き+モノづくり=ギタークラフトとなっている。

瀧川氏：その成果をどう PR していくのかというのも今後の課題。吹田市民を含む素人の目にも触れるように色んなイベント(産業フェア等)に、この内容を持ち込むことも検討してみてはと思う。

三原委員長：アートを扱っているのだから、一般にも力を入れ、社会への貢献をしていかなければならない。学校といえども一企業。一企業としてやらなければいけないことを検討してほしい。

音楽技術学科

設備や機材の刷新が学習効果へと繋がり、イベント参加や企業研修が現場感覚を体感させ、自身の向上に繋がっている。また、一般的な就職活動に必要な内容を項目別に対策講座を実施。再認識した結果として、ほぼ全員が希望する進路へ進んだ。

- ・ここ数年、高校軽音部の楽器経験者が技術系専攻に入学。また、演劇部出身の音響学生も現れた。先方も演者の気持ちがわかる技術スタッフと大歓迎され入社決定。
- ・CAT の特徴となるメンテナンス等の工具類が教材費を圧迫する中、タブレットや PC 導入も進めている。

高橋副委員長：高校までに学んだことを就職等に生かせるというのは素晴らしいこと。狭い範囲での勉強ではなく、広い視野を持たせて上げて欲しい。

総合学科

総合音楽専攻では、外部就職エージェントに協力を頂き就職内定を頂き、今後の音楽活動を継続させやすい環境を導き出した。また、総合スタッフ専攻は、就職指導の徹底を行い就職希望者全員に内定を頂いた。特に総合スタッフは、音響・照明・映像・配信技術を学び、今のトレンドだと思っている。イベントでは便利な存在となるが、東京などの大手企業になると専科学生のニーズが強い。

三原委員長：ライブハウス等での配信を含めた全てのセクションをひとりでできる人材は、現場では取り合いになっている。これからビジネス化される「ひとりで全て完了できる人材」というのは、進めていくことも有利になるのではないかな？

ダンス学科

連携企業の協力を頂き、特別授業や学外実習等、充実した内容を実施。業界大手の企業への就職実績へとつなげることができる。新専攻をスタートするにあたり、連携企業との協議を進めカリキュラム構築の準備が進んでいる。2019年度は、チームワーク的な問題を抱えたクラスが発生し苦労した。

東氏：クラスがチームとなる場合は、やはり技術だけではなくコミュニケーションや関係性の理解が必要となる。最近の学生は、リーダーが不在となるケースも多いため、担当される先生たちが、情報共有して工夫していくしかないので頑張ってもらいたい。

ミュージシャン学科

・「パソコン活用」については、2019年度から新カリキュラムをスタート、音源の発信とまとめ方や作り方を教えている。2019年2月のオーディションにおいて高評価を得たアーティストやバンドが、各メーカー／プロダクションとの話し合いを進めている報告もある。卒業後の「音楽の続け方」を考える学生が増えているので、その援助となる方法を模索中。

三原委員長：在学～卒業～デビューとなってほしいものだが、未永く音楽人生を歩んでいく教育も必要。音楽を続けて行く勇気も大切な要素となる。援助となる方法も導き出してほしい。

瀧川氏：技術系学生が行っている地域のイベントへの貢献は、今後も継続して行って欲しい。そして、そのような場に演奏系学生の出演等も期待していきたい。

○その他、意見交換

瀧川氏：コロナウイルスの影響で休校になった学校は？

→大学等では、前期リモート授業、後期もリモートに決定というところも多い。当校は実習中心の学校なので、当初より「授業スタートさせるため」のプロジェクトチームを構成、感染対策を万全に行い授業スタートを決定して進めている。

三原委員長：コロナ感染は広がっているが、今後の対策をどうされていますか？

・学校の出入口はひとつにして、常時マスク着用、入校の際の検温／消毒を確実にし、常時手洗い、ソーシャルディスタンス、換気等を行い、クラス人数の分割、教室をできるだけ広いところに移動、学内一方通行、食事場所の固定、食事の際のマナーの徹底(会話無し)等を徹底するかたちでスタート。

・まず 2020 年 5 月中旬よりリモート入学オリエンテーション、リモート授業をスタート。その後、6 月からの対面授業を盛り込んだ授業をスタートする。但し、昼休みの食事をとらないようにするため、午前／午後のどちらかに授業時間割を固定。授業終了後は、すぐに下校というところからスタート。レンタル等の内容は調整しながら運用。

・感染症の状況を見ながら、時間割内容を週単位で変更。対面授業に段階的に戻す計画を進める。実質の流れとしては、A プラン／B プラン／C プランの 3 段階で通常時間割に近づける状況となる。レンタルスタジオ等の制限 / イベント来客制限 / 入校 37.0℃未満等の工夫を進める。

・濃厚接触者等の発生は、関連授業の停止、二次接触者までを自宅待機として保健所の指示を仰ぐかたちにしている。

三原委員長：学生たちへ満足な教育が出来るのか？

→技術系学生は感染対策防止を努めたかたちで実習に出席している。現状は、どの専攻においても換気、消毒、検温、食事の注意、ソーシャルディスタンス等のポイントに気をつけて実習を行っている。工夫しているポイントとして、校舎内は、時間を決めて職員やクリーンスタッフが常に消毒に行くように担当割りをしている。授業内で使用したところを担当講師と学生たちが、消毒をして授業を終えるという徹底を図っている。この部分は、保健所等からも評価頂いている。